

第1学年 組 国語科学習指導案

平成19年 月 日 ()
指導者

1 単元名・教材名

こえにだしてよもう 「くじらぐも」 中川李枝子

2 読解力向上の視点

今回の「くじらぐも」では、読解力向上の7つの改善に示されている改善の具体的な方向に示されている、ア「テキストを理解・評価しながら読む力を高めること」の（ア）「目的に応じて理解し、解釈する能力の育成」に焦点をあて指導にあたることにする。

1年生の発達段階から考え、まず、読む楽しさを十分に味わわせることを大切にする。また、言葉に着目させ、叙述に即した読みを行う経験を多くさせていく。さらに、自分の好きなところを見つけたり、話し合ったりしながら、叙述をもとに根拠を明らかにしながら読みの工夫を行っていくことが、「目的に応じて理解し、解釈する能力の育成」につながっていくと考える。

具体的な指導の手立てとして、

①ワークシートに自分の考えを書き込ませる。

本単元ではそれぞれの文からどんなことを想像したかを書き込ませるワークシートを作成し、それに自分の考えを書き込ませる活動を行う。ワークシートに自分の考えを書き込ませることにより、言葉に着目し、想像する力を付けていく。

②ヒントワードを作成し、思考の助けとする。

ワークシートに自分の考えを書き込む活動は本学級の児童にとって初めての活動であり、さらに本学級の児童は自分の考えを表現することを苦手としている児童が多いため、思考の助けとして「ヒントワード」を用意する。ヒントワードは「きっと・・・」「どうして・・・」「・・・かな」「わたしだったら・・・」とする。

③自分の考えを広めたり、深めたりする場面を設定する。

友達の考えと比較することにより、自分の考えを広めたり深めていく。また、自分の考えに自信がもてない児童にとっては友達の考えを聞いたり、自分の考えを聞いてもらうことにより安心感をもたせ、自信を付けていくこともねらっていく。

④毎時間音読をさせる。

毎時間音読を取り入れることにより、言語感覚を高めていく。さらに、読みの工夫の根拠を明らかに確かにもたせることにより読解力を高めていく。

これらの活動を通して、読解力の向上を目指していく。

3 児童の思いや願いと本単元の意図

(1) 児童の実態

本学級の児童は、お話が大好きである。読み聞かせをすると、ほとんどの児童がお話の世界に入り込む。また、短い時間でも集中して読書を楽しむことができる。しかし、控えめで慎重な児童が多く、表現することや自分の考えをもつことを苦手としている児童が数名いる。また、発表の場面で、個別指導を要する児童も少数ながらいる。

(2) 教材について

「くじらぐも」は、体育の授業時間という身近な現実の中から、幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また、現実に戻る話である。現実の世界→空想の世界→現実の世界と場面が変わるが、1年生の子どもたちにとっては、自分たちと同じ1年生の体育の授業時間のお話であるので、とても身近に感じられ場面や様子を理解しやすい。また、会話文には、数を数えたり呼び掛け合ったりと、子どもたちにとって声を出すことが楽しくなるものばかりである。

これまでに児童は、「はなのみち」「おむすびころりん」「大きなかぶ」で「想像を広げながら読むこと」「文章のリズムに注意しながら声に出して読むこと」を学習してきた。

(3) 指導と評価の工夫

本単元では、読解力向上の視点をふまえ、各場面の様子や気持ちを想像する活動に重きを置き、想像したことをもとに自分の考えをもち、読みを深めること、そしてそれを音読の工夫に生かすことを行い、読解力向上をねらっていく。

本学級の児童にとっては自分の考えをワークシートに書いていくことは初めての活動になるので、単元の前半は全体で話し合う時間を長くとり、後半は自分で考える時間を長くとるようにしていきたい。ヒントワードを用意し、助けとする。また、少しでも書いている児童に対しては賞賛し、自信をもたせる。「すごい」「おもしろい」など単語のみで書いている児童に対しては「何が」「どういうふうに」と問いかけることにより、よりくわしい文で表現させる。書けない児童に対しては個別に話を聞き、そのやり取りの中から言葉を選び、書くように手助けする。全く考えがもてない児童に対しては友達の考え、あるいは担任が用意した言葉の中から自分の考えに近いものを選ばせる。

音読では、動作化や役割読みを取り入れ、位置関係を工夫したり、呼びかける際の声の大きさを工夫させたりする。また、なぜそのように工夫したかの根拠も児童一人一人がもてるようにしたい。回数多く読ませることにより、言葉の響きや会話の心地よさを存分に味わわせたい。

4 単元の見目標

- (1) 登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しもうとしている。
＜関心・意欲・態度＞
- (2) ・体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読むことができる。
・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えながら声を出して読むことができる。
＜読むこと＞
- (3) 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話すことができる。
＜言語事項＞

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準 ※ () は A の状況を表す。

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価	・登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しもうとしている。	・体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読んでいる。 ・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大き	・物語に出てくる感じを読んだり書いたりしている。 ・かぎ（「」）の使い方を理解して、文書の中

規 準		さなどを考えながら声に出して読んでいる。	で使っている。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	<p>①扉詩と「くじらぐも」を（想像を広げて）楽しく読もうとしている。</p> <p>②（読みの工夫をして、何度も）声に出して読もうとしている。</p> <p>③くじらぐもとの会話や子どもたちの様子などを想像し、（進んで）発表しようとしている。</p> <p>④自分が見つけた雲との話作りに（意欲的に）取り組んでいる。</p>	<p>①「くじらぐも」の話のあらすじを（的確に）とらえている。</p> <p>②場面の様子やくじらぐもと子どもたちの気持ちを想像して（場面の状況と関連付けた内容を豊かに）書いている。</p> <p>③語や文のまとまりや内容を考えながら、（声の大きさや速さを工夫して）声に出して読んでいる。</p>	<p>①漢字の読み方や書き方送り仮名を理解し、（適切に）使っている。</p> <p>②姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で（堂々と）話することができる。</p> <p>③「」の使い方を理解し、（適切に）使っている。</p>

6 指導と評価の計画（全10時間）本時 7 / 10時間

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<p>○扉詩「ともだち」を読む。</p> <p>○「くじらぐも」の範読を聞き、あらすじをとらえる。</p> <p>○新出漢字を習う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のリズムや響き ・ともだちはいいなと思う気持ち ・登場人物 ・場面設定 ・題名、作者 ・新出漢字「子」「空」 	<p>ア① エ① オ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子や態度の観察
2	<p>○新出漢字を習う。</p> <p>○全文を読み、感想をもつ。</p> <p>○音読練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字「右」「男」 ・疑問、感想、気に入ったところ ・難語句の確認 ・感想交流による内容理解と学習課題の確認 ・言葉のまとまりに気を付けて声を出して読むこと 	<p>ア② エ① オ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子や態度の観察 ・ノートによる考察
3	<p>○新出漢字を習う。</p> <p>○1の場面の様子を読み取る。【読解力】</p> <p>○動作をとらえる。</p> <p>○役割読みをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字「女」 ・くじらぐもとの出会いの様子と気持ち ・子どもたちとくじらぐもの動作 ・読みの工夫（役割読み・動作化） ・助詞「も」 	<p>ア③ エ② オ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子や態度の観察 ・ワークシートによる考察
4	<p>○新出漢字を習う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字「手」 	<p>ア③ エ② オ①</p>

	○ 2 の場面の様子を読み取る。【読解力】 ○ 気持ちを想像する。 ○ 工夫して音読する。	・ 飛び乗ることになった様子 と気持ち ・ 助詞「も」 ・ 位置関係（空と運動場）による読みの工夫	・ 発表の様子や態度の観察 ・ ワークシートによる考察
5	○ 新出漢字を習う。 ○ 3 の場面の様子を 読み取る。【読解力】 ○ 気持ちを想像する。 ○ 工夫して音読する。	・ 新出漢字「天」 ・ 飛び乗ろうとする子ども たちと応援するくじらぐもの 様子 と気持ち ・ 繰り返される言葉の読 みの工夫	ア③ エ② オ① ・ 発表や音読の観察 ・ ワークシートによる考察
6	○ 新出漢字を習う。 ○ 4 の場面の様子を 読み取る。【読解力】 ○ 気持ちを想像する。 ○ 工夫して音読する。	・ 新出漢字「見」 ・ 空を旅する子どもたちの 様子 と気持ち ・ 読みの工夫 （声の大きさ、動作化）	ア③ エ② オ① ・ 発表の様子や態度の観察 ・ ワークシートによる考察
⑦	○ 5 の場面の様子を 読み取る。【読解力】 ○ 工夫して音読する。	・ 別れる様子 と気持ち ・ 読みの工夫 （声の大きさ、動作化）	ア③ エ② オ① ・ 発表の様子や態度の観察 ・ ワークシートによる考察
8	○ 音読発表会を開く。 （屋上）	・ 読みの工夫 （声の大きさ、動作化）	ア② エ③ オ② ・ 発表の様子や態度の観察 ・ ワークシートによる考察
9	○ 自分が見つけた（想 像した）雲との話作 りをする。	・ 雲の形 ・ 雲との会話 ・ 「」の使い方	ア④ エ③ オ③ ・ 発表の様子や態度の観察 ・ ワークシートによる考察
10	○ 雲とのお話発表会。 ○ 単元のまとめ。	・ 声の大きさ、速さ ・ 話し手を見ること	ア④ エ③ オ② ・ 発表の様子や態度の観察 ・ ワークシートによる考察

7 本時の学習指導（本時 7 / 10 時間）

（1）目標

- ・ くじらぐもと別れるときの子どもたちの気持ちを想像することができる。

（2）評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
・ 子どもたちの気持ちについて関心をもち、進んで書いたり、発表したりしている。	・ くじらぐもと別れるときの子どもの気持ち を想像している。	・ 姿勢や口形などに注意して、はっきりとした発音で話そうとしている。

（3）展開

前時の学習内容	・ 空を旅する子どもたちの様子 と気持ちを想像する。
---------	-------------------------------

学習活動	学習内容	指導・援助と評価の創意工夫	分
1	本時の学習課題を確認する。 ・ 課題の確認	○ 前時までの学習をふり返る。 ○ 学習課題を十分につかめるように、 前時までの話の流れが分かる 掲示物	3

		を利用して確認する。	
	くじらぐもとおわかれする子どもたちのきもちをはなしあおう。		
2 音読をする。	(1) 1人読み (2) 指名読み	・大きな声で読むこと ・よい姿勢で読むこと	
3 感想を書く。【読解力：ア（ア）】	(1) 様子を想像し、感想をワークシートに書く。 ＜押さえる場面＞ ①帰る時間だと分かったとき ②学校の屋根が見えてきて、ジャングルジムに降りるとき ③「さようなら」と手を振ったとき ④空へ帰っていくくじらぐも	・心情の読み取り ・感想をもつこと	○.12 ページ 1 行目～ 13 ページ 10 行目 まですを音読させる。 ○声を出して音読させる。 ○丁寧にゆっくりと音読させる。
	(2) 感想を発表する。	・丁寧な言葉で話すこと	○これまでの感想を想起させる。 ○自分が感じたことを書かせる。 ○ヒントワードを使ってよいことを知らせる。
	4 お別れするときの子どもたちとくじらぐもの気持ちを想像して、ふきだしに書く。	・心情の読み取り	*くじらぐもと別れるときの子どもたちの気持ちを想像している。 →机間指導の際、自分の考えを書いている児童に対しては賞賛し、自信をもたせ、発表を促す。 →書くことができていない児童に対しては、個別に話を聞き、その中から書く言葉を選んであげる。 →全く書けない児童に対しては、友達の考えを聞いて同じものがあつたらそれを書いてよいことを知らせる。
5 場面の様子がわかるように音読する。	【読解力：ア（ア）】 ＜読みの工夫＞ ・速さ ・驚いた感じ ・お別れの様子		○3での話し合いをもとに、書かせる。
6 まとめ	(1) 自己評価をする。		○全文を工夫するのではなく、工夫して読みたい文や役を選ばせる。 ○どのように工夫するのかも話そうができるようにする。
			○自己評価し、学習のまとめをさせる。

次時の学習内容	・音読発表会を開くこと
---------	-------------

8 成果と課題

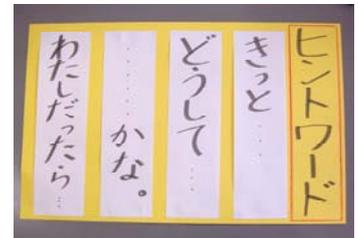
(1) 成果

授業実践後のアンケートで、「くじらぐもの学習は楽しかったですか。」という質問に対して94%の児童が楽しかったと回答している。「くじらぐもの学習で、どんな力が付いたと思いますか。」の質問に対して「友達の考えを聞く」(89%) 「自分の考えを持つ」(83%) 「声を出して読む(音読)」(83%) 力が付いたと回答している。これらの結果からも分かるように本学級の児童は今回の授業実践を通して音読活動を楽しみ、「自分の考えをもつ」力を身に付け、さらに「友達の考えを聞く」ことを楽しむことができたことがわかる。

4つの手立てごとの成果を以下にまとめる。

①「ワークシートに自分の考えを書き込ませる。」

児童にとって短時間で、自分の考えをもちワークシートに書き込む作業はたいへんなことである。単元のはじめは全体で話し合う時間を多くとることにより、学習の仕方を覚え、学習が進み慣れてくると進んで取り組めるようになっていった。それに従い想像力や自分の考えをもつ力が身に付いていき、書く量も増えていった。



②「ヒントワードを作成し、思考の助けとする。」

単元の前半はヒントワードを助けに言葉を書き込んでいる児童が多かった。しかし、回数を重ねていくうちに自分の言葉で書けるようになっていった。また、「おもしろい」「すごい」「びっくりした」と1語のみで書いている児童に対しては、「何がおもしろいのか」「どうしてすごいのか」「何におどろいたのか」とたずねることにより具体的に書くことができるようになり言葉を増やしていった。はじめは書くことが面倒だった児童も文字数が増え文になっていくことを楽しんでいった。

③「自分の考えを広めたり、深めたりする場面を設定する。」

自分の考えに自信がもてなかった児童も、個別指導の際にワークシートに書いてあるものを認めてあげると自信をもち、発表できるようになった。また、多くの児童が発表できるようになっていくと自分もがんばろうという気持ちになって発表できるようになっていった。また、いろいろな考えがあつてよいということを知ると自分の想像を広げようと意欲的に取り組んでいった。

④「毎時間音読をさせる。」

音読活動では動作化や役割読みを児童はとても楽しんだ。友だちと手をつないで声を掛け合ったりジャンプをしたり、また、くじらぐも役の子が机の上に乗って音読をしたことがとても楽しかったようである。音読の工夫では、工夫の理由を言わせることにより叙述をもとに根拠を明らかにすることも学ぶことができた。屋上での音読では、普段大きな声を出すことが苦手な児童が教室よりも大きな声で音読する姿も見られた。どの児童もくじらぐもの世界を楽しむことができた。

(2) 課題

1年生の児童にとって、登場人物の心情を想像する他に自分の考えをもち記入することは、時間的に難しい面もあった。しかし、今回の授業実践で本学級の児童は「自分の考えをもつこと」「自分の考えを発表すること」「工夫した音読をすること」を学ぶことができた。児童のアンケートからも「友達の考えを聞くのが楽しい。」という感想があつたように、今後は①「自分の考えをもつこと」から③「友だちの考えを聞き、自分の考えを深める、広めること」へと重点をステップアップしていきたい。また、このような取組を重ね、読解力の向上を目指していきたい。